

花博記念協会設立30周年記念フォーラム

花のある新しい暮らし

記録集



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

花博記念協会設立30周年記念フォーラム 「花のある新しい暮らし」

日時:令和4年3月24日(木)午後1時~4時
場所:オンライン開催(Zoom ウェビナー)

【目次】

開催概要	1
主催者挨拶	2
基調講演① 尾室 義典 (農林水産省園芸作物課花き産業・施設園芸振興室 室長)	3
基調講演② 林 孝洋 (近畿大学農学部教授)	10
基調講演③ 城山 豊 (咲くやこの花館 館長)	18
パネルディスカッション コーディネーター 須磨佳津江.....	27

開催概要

花博記念協会設立 30 周年記念フォーラム「花のある新しい暮らし」

1. 開催趣旨

1990 年に鶴見緑地で開催された花の万博は、「自然と人間との共生」を理念に、栽培、緑化技術の革新的な進展や花緑の普及はもとより自然と人間がどのように歩いていくべきか提言するものであった。あれから 30 年、気候危機や感染症で生活が変容した今、花や植物が人の心や生活にどのような役割、効果をもたらしているのか。花をテーマに、様々な分野からの話題提供を元に、「花のある新しい暮らし」について探る。

2. 主催 公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

3. 後援 公益財団法人 日本花の会、一般社団法人 フラワーソサイエティー

4. 日時 令和 4 年 3 月 24 日（木）午後 1 時～4 時

5. 次第

13:00～13:05 主催者挨拶

13:05～13:35 講演① 農林水産省園芸作物課花き産業・施設園芸振興室
室長 尾室義典

13:35～13:40 質疑応答 (Zoom Q&A)

13:40～14:10 講演② 近畿大学農学部教授 林孝洋

14:10～14:15 質疑応答 (Zoom Q&A)

14:15～14:25 休憩

14:25～14:55 講演③ 咲くやこの花館 館長 城山豊

14:55～15:00 質疑応答 (Zoom Q&A)

15:00～16:00 パネルディスカッション 冒頭にコーディネーターより話題提供
コーディネーター：須磨佳津江

パネリスト：尾室義典

林孝洋

城山豊

6. 実施場所/実施形態

Zoom ウェビナーによる、無観客、WEB 配信で実施。

7. 視聴者数 160 名

主催者挨拶

片山 博昭

公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 専務理事

花博記念協会、専務理事の片山と申します。本日は花博記念協会設立30周年記念フォーラム「花のある新しい暮らし」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます

私共、花博記念協会は1990年に大阪の鶴見緑地で開催された花の万博の理念継承を目的に生まれた財団でございます。

花の万博は、自然と人間との共生という理念の元、地球規模での温暖化、森林の減少など環境問題に関心が高まる中、花と緑の新しい価値の創造や自然と人間がどのように歩んでいくべきかを問うものであります。

本日は、花の万博から30年が経った今、気候危機やコロナウイルス感染症で暮らしが変わっていく中、花や植物が人の心や生活にどのような役割、効果をもたらしているのか。花をテーマに、様々な分野からの話題提供を元に、「花のある新しい暮らし」について探って参りたいと思います。

最後までごゆっくりお楽しみください。



当日の様子

基調講演①



「花きの現状について」

農林水産省農産局園芸作物課 花き産業・施設園芸振興室室長 尾室 義典

日本は花き生産が盛ん

わが国の花き産業は、生産額が3,500億円程度、国内消費は1.1兆円ということで、1兆円産業といってもいいのではないかと思います。この3500億円が農業生産の中でどれだけの大きさかという、毎日食べている米の生産額が約1.6兆円なので、それなりの規模だと思っていただければいいでしょう。

輸入が約500億円ですから、金額ベースでは約87%が国産です。自給率とは正確には合っていないかもしれませんが、金額ベースの食料自給率の67%程度と比較しても、比較的国内で作っているという状況です。

では、世界で見たときにこの3,500億円がどうなのかというと、この中には植木なども含まれているのですが、いわゆるお花だけで見ると実は日本はお花大国で、生産額はアメリカ、オランダに次いで3位に入ります。そういう意味では、日本人は常に暮らしの中でお花をそばに置いていて、お花とともに過ごしている国民だと考えてもいいでしょう。

花きの生産・消費動向

花きの生産状況の推移を見ると、1990（平成2）年に大きく伸びています。これはまさに、大阪で花の万博が行われた年です。これをきっかけに花き生産がどんどん伸び、1998年にピークである6,300億円まで伸びました。残念ながらその後は徐々に生産を減らし、今に至っています。

種類別で見ると、花博を機に切り花類の生産額が伸び、鉢もの類や花壇用苗もの類も割合が増えています。これは、ガーデニングブームが花博を機に起こり、国民生活に浸透していったからです。

ただ、その後徐々に減っている原因を考えると、輸入が増えていることも少し影響しているのですが、大きいのは1世帯当たりの花の年間購入額が徐々に減っていることです。切り花の購入金額は、ピーク時に年間1万3,000円程度だったのが、今は8,000円程度になっており、これが生産の減少にもつながっていると考えています。

購入額を世代別に見ると、やはり若い世代の購入が非常に少なく、特に40代以下と50代以降でギャップが大きくなっています。これは全く私の仮説で、学術的な裏付けも国の公式見解もないのですが、50代以上の方は花博が開かれた平成2年ごろに既に大人であった、購買層であった方々です。一方で、当時まだ生まれていなかった世代やお子さんだった世代は購入額

が少なくなっています。やはり大きなイベントを機に、花きにもう一度目を向けていただいて、それを消費につなげていくことが重要なのだと思っています。

消費量も減っています。ただ、消費に占める国産の割合はまだ高く、生産の方もしっかり頑張っているという状況です。

世代交代がどんどん進み、若年層の方々が購買層の中心になっていくと、将来的にはさらに需要減・生産減が進む可能性が大きいので、われわれとしてもぜひ、若い世代を中心に暮らしの中でもっとお花を楽しんでいただく習慣を定着させていきたいと考えており、そのために国でもいろいろなことに取り組んでいます。

花きの消費拡大に向けて

しかし、国が花きの消費拡大に向けて、花を買ってくれたら補助金を出すというわけにはいかないのです。いろいろなところでお花に触れ合ってもらう機会を増やそうと考えています。公共施設やまちづくり施設、社会福祉施設など、花きの効用が発揮できる施設で花きを活用していただいたり、小さい頃からお花に親しんでいただくために食育ならぬ「花育」に取り組む活動を支援したりしています。

それから、若い方の中にはお花屋さんに行ったことがなかったり、入りづらいという方も結構います。お花を買ってきても、家の中でどう飾ればいいのか分からなかったり、どう管理したら長持ちするのか分からないという声も最近をよく聞きますので、それに応えるような動画を作ったり、新たな文化の創出にも取り組んでいく必要があると思っています。

さらには、新しい需要を作り出すために、今年はテレビなどでもかなり報道していただいて認知度がだんだん高まってきたと自分たちでも勝手に思っているのですが、フラワーバレンタインという取り組みを展開しています。日本ではバレンタインデーにチョコレートを贈るのが文化になっているのですが、外国ではバレンタインデーにお花を贈る習慣になっていて、世界でお花が一番売れる日がバレンタインデーなのだそうです。そこで、日本でもバレンタインデーに花を贈る習慣を根付かせようということで、フラワーバレンタインという取り組みを業界団体で行っていて、それを国としても支援しています。

特にお花の需要は、イベントに結構左右されるところがあって、例えば卒業式や入学式、お盆やクリスマスの需要が非常に大きいのです。しかし1~2月は、お花自体は豊富にあるのですが、なかなかそういうイベントがなくて消費が伸び悩んでいることもあり、世界で一番お花が売れている日なのに「花大国・日本」ではあまり売れません。これはもったいないということで、フラワーバレンタインを展開しています。

取り組みを始めた頃は認知度が1桁台だったのですが、去年は3割を超えるぐらいにまで増えたので、徐々に浸透してきたと思っています。中でも若い男性は今まであまりお花を買って来ていなかったのですが、活動3年目の2013年と比較して今では購入率が6倍に増え、一定の定着が見られるので、これからもしっかりと伸ばしていきたいと思っています。また、今後の話としては、家計消費における切り花の消費金額は、テレワークなどの増加に伴い、自宅で花を飾る人が増えたので増加しています。こういったものもしっかり捉えていかなければならないと思っています。

そこで農林水産省では、「花いっぱいプロジェクト」という取り組みを始めています。コロナが起こって、お花の消費が非常に減りました。特に2年前、入学式や卒業式で準備していたお花が大量にキャンセルされたり、結婚式もできないのでお花の需要が大きく落ち込んだ中で、

国としてもできることを足元からやっつけていこうではないかということで始めました。

農水省に来ていただけると分かるのですが、毎日必ず玄関にお花を飾っています。恐らく他の役所に行っても、あんなにお花を飾ってある役所はないと思います。玄関や大臣室の前など要所要所にお花を飾ったり、職員にお花を買ってもらう取り組みをしたりして頑張っています。そうしたことをコロナ以降ずっと続けてきたのですが、幸いなことに在宅でのお花の消費が増えたので、花き全体としては生産量、価格ともに回復基調にあります。

こうした状況を踏まえつつ、先ほど花の万博でお花の消費が非常に伸びたという話をしましたが、2027年に国際園芸博覧会という花の万博と同規模のイベントが横浜市で開催される予定です。これに向けて国内の機運醸成を図り、国民の皆さんにお花を身近に感じていただき、幅広く消費拡大を図っていくために、コロナでダメージを受けたので花を何とか使いましょうという運動から、もっと前向きに生活の中にお花を定着させる運動を展開していく形に今年からリニューアルして取り組んでいます。その活動の一つが先ほど言ったフラワーバレンタインであり、母の日だけでなく父の日にもぜひお花を贈ってほしいという施策を展開しています。

また、農水省ではSNSのFacebookやTwitter、あとはYouTubeに「BUZZ MAFF」というチャンネルを持っていて、お花の動画を一生懸命配信しています。なかなか視聴が伸びないので、このフォーラムを機に見ていただければと思うのですが、お花に関するトリビア的な話から、フラワーバレンタインにはどんなお花を贈ったらいいかといったことを紹介する動画も出しています。

それから、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が昨年開催されましたが、メダリストにメダルと一緒にビクトリーブーケというものを贈らせていただき、非常に大きな反響がありました。ビクトリーブーケは1984年のロサンゼルスオリンピックで初めて用いられたのですが、生花の確保が難しいといったことから中止されていた時期がありました。しかし、国産の花きをどうしてもビクトリーブーケで使いたいという花き業界の熱い思いから、関係各所と調整して何とか実施にこぎ着けました。

ただ日本の花を使うだけではなく、今回のオリンピックは復興五輪という位置付けもあったので、東北の花を使うことにし、基本的にメインのお花は被災3県（福島、宮城、岩手）産のものを使って、あとは地元・東京都産のナルコランなどを使いました。オリンピックでは宮城県産のヒマワリ、福島県産のトルコギキョウ、岩手県産の lindou など、パラリンピックでは



当日の様子

ヒマワリではなくて宮城県産のバラに替えました。実はこれにも思いがあって、パラリンピックは目の見えない方も参加していらっしゃるの、目の見えない方にもブーケを楽しんでいただきたいという思いから、匂いのするバラを使いました。

非常に反響があって、橋本聖子大会組織委員長もパラリンピック閉会式のスピーチでブーケについて触れ、まさに被災地で育てられた花から作ったことに非常に意義があったとわれわれも受け止めていますし、日本のお花の素晴らしさを国内外の皆さんにも感じていただけたのではないかと考えています。

そして今、コロナ禍を経て状況がかなり変化してきています。切り花の取扱額は2015年以降減少傾向だったのですが、2021年は329億円となり、コロナ感染拡大前の2019年を上回ったのです。これはやはり、先ほど生活様式が変化したと申し上げましたけれども、外出が制限される中で、何とか暮らしの中で安らぎや潤いを求めようとする人々の行動が反映され、お花を家に飾ろうという動きが増えた結果だとわれわれは思っています。そうした動きがこれからも続いていくことが、人の心を豊かにすることにつながるのではないかと花きを振興する立場としても思っており、その動きを途切らせないようにすることがわれわれ行政の仕事だと思っています。

国際園芸博覧会について

今年の国際園芸博覧会は、「フロリアード2022」としてオランダのアルメーレ市で開催されます。その博覧会に日本としても出展する予定で、これを契機に日本の花きの素晴らしさを世界の皆さんに知っていただき、輸出拡大を図りたいと考えています。

ただ、オリンピックであれば世界中で中継を楽しめるのですが、博覧会だと遠い空の下でやっているという感じで、皆さんにオランダのものを見ていただくのは困難です。しかし、少しでも雰囲気は伝わるようにわれわれも考えています。過去には2019年に中国・北京、その前はトルコのアンタルヤで開催されましたが、海外での園芸博を知る機会はなかなかないのが現状です。しかし、実は日本も賞をかなり取って頑張っているのです。そうしたこともなかなか知られていないので、先ほどの花いっぱいプロジェクトの中でも取り上げて、随時情報発信していきたいと思えます。

そして、先ほども触れましたけれども、2027年に大阪花の万博以来37年ぶりに、横浜で園芸博が開催されます。まさに今日、横浜のみなとみらいで5年前イベントが行われています。やはり同じ園芸博だけあって、シンクロする部分もあると思うのですが、大阪で作った流れを横浜でもしっかり作っていきたいと思っています。横浜には米軍がずっと使っていた広大な土地が249haあるのですが、2015年に返還され、そのうち100ha程度を会場として開催したいと思っていますので、ぜひ興味のある方は見に来ていただければと思います。

なぜ園芸博覧会を国が大々的に行うかという、大阪花の万博が本当に花き産業にとって大きな影響があったからです。当時はバブルだったからだと思うかもしれませんが、そうではありません。1998(平成10)年まで、花の生産は産出額、生産面積ともに伸びていました。園芸作物(野菜や果樹)は生産額が変わらないのに生産面積が減ったり、バブル後にかなり影響を受けたのに対し、お花は影響なく順調に伸びています。それはやはり花の万博を機に国民の生活にお花が根付いた証左ではないかと考えています。ですから、一過性のイベントではなく、将来的に皆さんの生活にお花を取り入れていただく大きなきっかけになると思っていますので、政府としてもしっかりと力を入れて、横浜市などと連携しながら成功に向けて頑張ってい

ます。

このように国では需要拡大策を講じているのですが、決定打を放つまでには至っていないと認識しています。一方で、コロナによって当初はお花の需要が大きく落ち込みましたが、生活様式が変わってきて、人々の心の持ち方なども変わったのではないかと考えています。これは花き産業にとって非常に大きなチャンスであり、これをしっかり生かしていきたいと考えています。それは産業振興というだけではなく、お花は人の心を豊かにする力があると思うので、花き産業が発展するということは日本人の生活や心を豊かにすることにつながっていくのだと信じて、このチャンスをしっかり生かしていきたいと思っています。

やはり大阪花の万博のインパクトは偉大であり、2027年の横浜園芸博でも同様のインパクトを残せるように、われわれとしても頑張っていきます。

質疑応答

(Q) 花の万博はガーデニングブームや環境問題に対する取り組みの節目になったといわれていますが、2027年に開催される横浜園芸博は開催後どのようなことが期待できるでしょうか。

(尾室) ガーデニングブームもそうですし、世界的なキーワードとして持続可能な開発目標（SDGs）があると思います。まさに持続的な社会のきっかけづくりの中に花を取り入れていくようなトレンドがレガシーになればいいと思っています。

(Q) 全国の個人事業主の花屋さんは減少傾向なのでしょうか。

(尾室) 販売額自体が減っているので、減少傾向なのかもしれません。一方で、個人消費のお花は少し伸びているので、そういったチャンスにわれわれも一緒になってしっかり頑張っていきたいと思っています。

● 発表資料

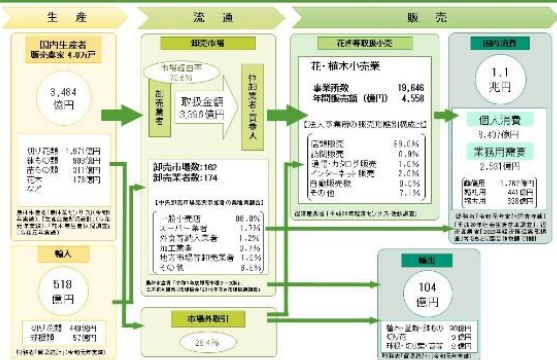
花きの現状について

令和4年3月
農林水産省



いいことあった日、花を買おう。
花でいい日、幸せな日。

1. 花きの生産・流通・販売の主な流れ



1 注：1億円単位。国内生産額、輸入額、輸出額は、農林水産省の発表値に基づき、概算値を示している。流通額は、流通業者の発表値に基づき、概算値を示している。販売額は、販売業者の発表値に基づき、概算値を示している。

2. 花きの生産・消費

(1) 花きの生産の現状(産出額・作付面積)、消費動向

- 花きの作付面積は平成7年48千ha、産出額は平成10年30億円でピークに全高直達して減少傾向、近年は漸減傾向で推移。
- 切り花の購入金額は長期的に見ても、世帯主の年齢別で見ると、若年層ほど購入金額が低い。



2

2. 花きの生産・消費

(2) 花きの消費量

- 切り花の国内出荷量・輸入量の総計は徐々に減少傾向。
- 近年は輸入量に大きな変化はないが、国内出荷量が減少。




3

- 近年は花きの生産額は減少傾向
- 消費の低迷が原因であり、特に若年層の購入額が小さい。

→ 状況変化がない限り、将来的にも更に需要減・生産減が進む可能性大。

若い世代を中心にもっと暮らしの中にお花を！



4

3. 花きの消費拡大

(1) 花きの需要拡大への取組

- 花きの文化の振興を図るためには、
 - 公共施設やまちづくり、社会福祉施設等の花きの活用が活用できる施設等における花きの活用
 - 児童、生徒等に対する花きを用いた教育(花育)や地域における花きを活用したイベント等の推進
 - 日常生活における花きの活用(花飾)の促進、花きに関する伝統の継承、花きの新たな文化の創出等に取組むことが必要。



5

3. 花きの消費拡大

(2) 新たな花きの需要創出に向けた取組

- フラワーバレンタインや「Flower Biz」、「Flower Friday」、「WEEKEND FLOWER」などの取組により新しい需要を創出。



<らの中に花を取り入れよう！>

Flower Biz Flower Friday!

WORK～オフィスの花～
月曜日のオフィスに花を
WEEKEND FLOWER LIFE 生活の花
金曜日の花飾り・花飾り

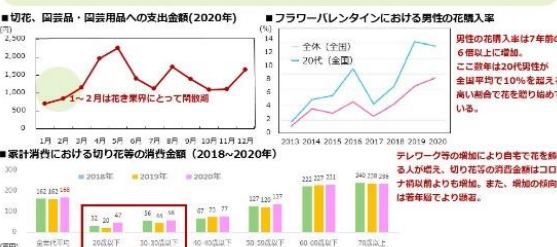
多様なライフスタイルに花を取り入れ、贈り物や家庭でもっと気軽に花と過ごす暮らしを、「Flower Biz」、「Flower Friday」、「WEEKEND FLOWER」がサポートします。

日常の暮らしの中に花と過ごす時間を増やすことになって、心のバランスを保ち、癒しの時間を演出してみたい。毎日を楽しく、花とくらす健康な毎日です！

6

<参考> フラワーバレンタインの取組の効果について

- ・ 花き業界においては、毎月の支出金額が少ない1～2月に新しい需要を創出するため、2011年よりフラワーバレンタインの取組を推進。
- ・ フラワーバレンタインの男性(全国20～49歳)の花購入率は、活動3年目の2013年当初と比較し6倍に増加。また、この数年は20代男性の購入率が10%を超える高い割合
- ・ 家計消費における切り花の消費金額は、テレワーク等の増加により自宅で花を飾る人が増え、コロナ禍以降も増加。今後はポストコロナに向け、特に10年後20年後の市場につながる若年層の消費金額の増加を図る必要がある。



7

3. 花きの消費拡大

(3) 花いっぱいプロジェクト

○ 花きについては、品目毎のばらつきはあるものの、全体としては生産量・価格ともに回復基調。
 ○ こうした状況を踏まえつつ、「花いっぱいプロジェクト」に引き続き取り組み。2022年の国際園芸博覧会（開催地：横浜）の開催に向けて国内の搬運態勢を固めつつ、国民に花きを身近に感じてもらったことで幅広く消費拡大を図る方向にシフトし、サイトを2022年1月にリニューアルするとともに、BUZZMAFF等による情報発信を展開。

(1) フラワーレンタインや奇の目、又の目など花を贈る花き購入施策を推進。

(2) 農林水産省公式Facebook、Twitter、LINE、Instagram等を通じて「今更の花」発信や、家庭・職場等での花飾りや花贈りの事例の紹介、行き内等の花飾りを実施。

(3) 「花いっぱいプロジェクト2021」から「花いっぱいプロジェクト 10040」に2022年「国際園芸博覧会」として特設サイトリニューアル。ホームページの更新や若年層に向けた花きコンテンツを継続的に投稿することで花きの需要拡大を図る。

BUZZMAFFを活用した、情報発信

リニューアル後のホームページ



(参考) 東京2020オリンピック・パラリンピック総括大会におけるビクトリーブーケの取組

・ビクトリーブーケの提供は、各産地生産者からの供給、ブーケの制作・会場輸送ともに、低温管理の徹底により、猛暑下でも大きな影響なく無事完了。
 ・TVをはじめ多くのメディアに取り上げられるとともに、SNSを中心に大きな反響があった。
 ・オリンピック、パラリンピックを通じてビクトリーブーケの総制作数は6,430束、総制作スタッフは延べ808名となった。

■オリンピックビクトリーブーケ
 制作期間：7/22～8/8（16日間）
 制作数：3,300束
 制作スタッフ：延べ418名

■メディアにおける報道状況、SNSでの反響
 ・NHK総合7/16「あさイチ」
 ・日本テレビ7/23「news every1」「news zero」
 ・日展8/2、読売8/26、毎日9/2、中日9/4
 以上その他、海外のメディアも含め多数報道
 ・ツイッター・ビクトリーブーケ62,000件以上（7/30現在）

■パラリンピックビクトリーブーケ
 制作期間：8/24～9/5（12日間）
 制作数：3,130束
 制作スタッフ：延べ390名

■橋本組協会の「パラ開会式」でのスピーチ（抜粋）
 「……メダリストの笑顔に添えられたブーケは、東日本大震災の被災地で育てられた花から作られた。この花を贈り続けた人たちの不屈の精神が込められているから、この花はいつでも誇りに感じたいと思います。この花を、被災の地を照らす光として、さらに前へ進んで参ります。」

3. 花きの消費拡大

(4) コロナ禍を経た状況の変化

○ 切り花の取扱量は、2015年から2020年まで年々減少していたが、2021年は329億円となり、前年の2020年とコロナ感染拡大前の2019年を上回る水準まで回復。
 ○ 切り花の取扱本数は、2015年から2020年まで毎年減少していたものの、2021年は増加に転じた。

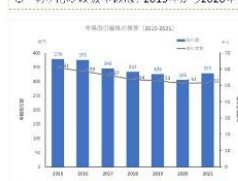
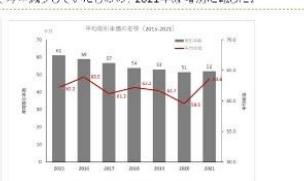



図1: (切り花単位) 取扱と取引単価
 ※切り花は、国産の切り花主要15品目の合計、切り枝、切り葉は含まれない

4. 国際園芸博覧会について

(1) アルメーレ国際園芸博覧会（フロリアード2022）への政府出展について

○ 2022年4月～10月、オランダ・アルメーレ市にて、国際園芸博覧会が開催予定。オランダにおける国際園芸博覧会は10年ごとに開催される歴史と伝統を有するもの。
 ○ 園芸先進国のオランダにおける国際園芸博覧会への出展は、我が国花きの輸出拡大、造園緑化技術の海外展開を図る上で極めて有益。

開催概要
 位置 付け：島上位の国際園芸博覧会（A1）
 開催場所：オランダ アルメーレ市（約60ha）
 開催期間：2022年4月14日～10月9日
 参加者数：200万人
 テーマ：成長する緑の都市
 ～Growing Green Cities～

政府出展
 テーマ SATOYAMA Farm Garden
 国際園芸博覧会における農業及び園芸展示イニシアチブ、農産物と園地、園地、園地が一体となった日本の伝統的な庭園の文化と自然環境を伝えること、我が国の園芸技術や花の文化を海外へ紹介することを目的とする。

【我が国の国際園芸博覧会参加事例】
 ※1960年 オランダ国際園芸博覧会
 1984年 イギリスリバプール（日本参加）
 1990年 大阪
 1992年 オランダ・スチューブ
 1993年 ドイツ・フランクフルト
 1998年 中国・昆明
 2002年 オランダ・ハーグ・ホルムヘーブ
 2003年 ドイツ・コロン
 2006年 タイ・バンコク
 2012年 オランダ・フェーンロー
 2016年 トルコ・アンタリア
 2019年 中国・北京
 2022年 オランダ・アルメーレ

4. 国際園芸博覧会について

(2) 2027年国際園芸博覧会（横浜市）の開催について

○ 最高位の国際園芸博覧会(A1)が2027年に横浜市で開催予定。（我が国では1990年の「大阪花の万博」に次いで2回目の開催）
 ○ 「幸せを創る明日の風景」をテーマに国内外の様々な主体が参加して園芸文化を世界に発信

開催概要
 ■開催場所：旧上野宮通信施設跡地（横浜林道より徒歩5分）
 ■開催期間：2027年3月～6月（約16週間）
 ■会場面積：約100ha
 ■参加者数：1,500万人以上
 （※参加者数増加を想定）

事業方針
 ■テーマ：幸せを創る明日の風景
 ～Scenario of The Future for Happiness～
 ■開催業態
 Social A1の開催
 グリーンインフラの発展
 緑化と都市の発展を促進
 花き産地の振興を促進
 花き産地の振興を促進
 花き産地の振興を促進



4. 国際園芸博覧会について

(3) 大阪花博の影響

○ 花きの生産は産出額、生産面積とも大阪花博が開催された平成2年に大きく増加。
 ○ パルル後も野菜、果樹の生産が伸び悩む一方で、花きについては、平成10年頃までは産出額・生産面積とも順調に増加

産出額の推移(億円、注:国内のみ)平成10年を100とした比率

	平成元	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9
花き	9,200	25,92	5,804	9,201	9,148	9,327	9,282	9,236	9,222
	(100)	(113)	(112)	(112)	(112)	(112)	(112)	(112)	(112)
野菜	29,719	25,268	26,285	24,237	25,548	26,268	25,278	25,268	25,268
	(100)	(111)	(111)	(110)	(111)	(110)	(110)	(110)	(110)
果樹	9,455	12,461	11,285	9,585	9,408	9,361	9,142	9,280	9,287
	(100)	(111)	(111)	(110)	(110)	(110)	(110)	(110)	(110)

生産面積の推移(ha、注:国内のみ)平成10年を100とした比率

	平成元	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9
花き	34,200	44,408	45,282	45,346	45,177	47,748	49,200	47,709	47,542
	(100)	(127)	(128)	(130)	(130)	(137)	(143)	(139)	(138)
野菜	520,200	531,480	527,200	521,200	517,200	502,100	505,200	529,400	529,200
	(100)	(102)	(101)	(101)	(101)	(101)	(101)	(101)	(101)
果樹	345,200	341,200	335,200	335,200	334,200	315,200	310,200	315,200	315,200
	(100)	(101)	(101)	(101)	(101)	(98)	(98)	(98)	(98)

○ 様々な需要拡大策を講じているが全体として需要の減少傾向に歯止めをかけるまでには至っていない。
 ○ 一方で、コロナによる生活様式の変化は大きなチャンスであり、これをしっかり活かす必要。
 ○ 1990年の大阪花博のインパクトは大きい。2027年の横浜花博でも同様のインパクトが残せるよう社会的に盛り上げていくことが重要

基調講演②



「花を栽培することの楽しみ」

近畿大学農学部 教授 林 孝洋

お二人の熱烈なプラント・ラバー

私は園芸の教員を37年間やってきて、ちょうどこの3月で退職します。最終講義の機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

東京農業大学の浅野先生によると、花による癒やしには大きく分けて二つあるそうです。一つは観賞して「楽しむ」こと、もう一つは能動的に関わって自分で作って「楽しむ」ことです。能動的に作る楽しみは自分で体験しないとなかなか分からないので、今日は一人でも多くの方に花作りを始めてみようと思っていただけると幸いです。

最初に、私が37年間園芸に携わってきた中で非常に強く印象に残っているプラント・ラバー（花の愛好家）をお二人ご紹介します。

一人目が、趣味の大菊作りに取り組んでいた稲垣さんです。私は1984～1993年の9年間、岡山大学に助手としていたのですが、稲垣さんという80代後半ぐらいのおじいさんが毎日のように、菊作りについて話をするために大学の畑に来られていました。驚いたのは、大学人が読むような分厚い本を手に入れて、定規で几帳面に線を引きながら読み、さらには大学ノートに栽培のポイントを書き出していたことです。当時はインターネットも普及していませんし、大学の論文を読むチャンスもなかなかないので、一人で勉強していて分からないところを質問に来られていたのだと思います。その熱心に打ち込んでおられる姿を今でも鮮明に覚えています。

そういった楽しみは、ご本人にしか分からないことだと思うのです。私も今年63歳ですが、死への恐怖などいろいろなことを考えます。でも、稲垣さんにとっては菊花展で少しでも多く上位入賞することが目標になっていて、死への恐怖など恐らくみじんもなかったでしょう。そうして最後まで花作りに情熱を燃やし、楽しい人生を送られたのではないかと思います。

もう一人は、日本一背の高いヒマワリを育てている大阪府貝塚市の山藪さんです。本職は農業なのですが、切り花用品種の種を自分で採って、少しでも背の高いものを選抜し、肥料を工夫するなどしながら、ギネス記録を目指しておられます。いいところまで行くのですが、なかなか世界記録に到達しないので、工夫に工夫を重ねてチャレンジしています。他人から見れば趣味の域を超えていると思うかもしれませんが、見方によってはそうして工夫しながら少しでも背の高いヒマワリを作ることに大きな喜びを感じておられるのではないかと思います。私がお邪魔した2015年当時の記録は7m20cmでしたが、ギネス世界記録は9m17cmです。山藪さんとすれば、一度でいいからギネス記録を塗り替えたいと思いながらチャレンジされています。

こんなに大きなことでなくても、皆さん一人一人の中でちょっとした目標のようなものを持

って、そこに到達するために工夫する楽しさを感じるのが生き甲斐になるのだと思うのです。

難問に挑む大切さ

アメリカ・カリフォルニア工科大学の「ブルーフロック・ハウス」という学生寮の入り口には、「大きな問題について考える。そうした問題が重大だからではない。取り組み甲斐があり、人の心を勇み立たせ、また、不朽だからだ」と書かれています。カリフォルニア工科大学は多くのノーベル賞受賞者を輩出した名門ですが、難問をまず見つけて、一生を懸けてそれにチャレンジするという校風があるのです。

つまり、生業として収入を稼いで生きていくことも大切ですが、一生「なぜ？」と問い続けられるような問題を持てれば、いつも知的好奇心でワクワクした毎日を送ることができるのです。実際に私も、こんな工夫をすれば植物はこんなふう to 育つのだという経験によって達成感を味わうことができると、言葉にできないくらいにうれしいものです。それが生き甲斐なのです。身近なところで自分なりに工夫をして、愛情を込めて育てたときの植物の出来栄を見たり、ましてや朝採れの野菜を食べて「おいしいな」と思ったりすることで毎日ワクワクできれば、植物の栽培は楽しいものなのです。

今回改めて、日本の花き園芸学を創始された塚本洋太郎先生が44年前にお書きになった『園芸の時代』を読み返したのですが、内容が全く古くなっていて、むしろ先生のご指摘を改めて味わい深く読んでみたいと思いました。その中で、「植物は人間の栽培作業に対して、正直に反応してくれる。植物の生長、開花が手入れによって調節されることは、無機的社会で働くものにとっては喜びであり、植物の反応は期待となって、明日の生活に活力を与えてくれるであろう」と書かれています。植物の効用や大切さは、いろいろな観点から多角的に論じられると思いますが、昔は森の中で過ごしていた人間が自然から都会に移っていき、植物が身近なものではなくなっている現在、もう一度このことを原点として振り返ってみたいと思うのです。

私はアンズリウムという花を長年育てています。サトイモ科の植物で、気根といって大きな木などにくっついて育つ植物です。根が張っていくために、木の幹のようなものを用意すると、重力に逆らって2mぐらいまで伸びていきます。それを人間が鉢に植えたりして栽培しているのですが、そうして工夫したときにアンズリウムが「ありがとう」と言ったような気がするのです。こういうものを観察していると、塚本先生がおっしゃる何気ない喜びというのは、自分たちが社会のルールに厳しく制約されている中でもっと自由でいたいと思うときに、植物がそれに応えてくれるという喜びであり、まさに植物の反応が期待となって、外で受ける人間的なストレスが相殺されるというか、発散する一つ的手段になっていたのではないかと思うのです。

奥が深い「園芸の難問」

アメリカ・パデュー大学のJanick先生という有名な園芸の先生によれば、科学技術を系統樹にすると、花き学や野菜学、果樹学は樹の先端に当たるのです。つまり、いろいろな基礎学問をある程度理解してはじめて、応用学としての花き学や野菜学、果樹学があるのだということです。確かにいろいろなことを広く浅く知らないといけなくて、ただ単に水と肥料をやれば、いいものができるわけではありません。ですから、何か身近なところでテーマを持てば、しばらくは愉しめる園芸の問題に出合うわけです。

今日は花がテーマなのですが、野菜にも関心を広げて五つほど問題を考えてみました。

例えば、簡単なところで、えぐ味のない甘いカブです。ホームセンターなどに行くと、いろいろな肥料が組み合わさっていて、それだけやればいいという複合肥料が売られています。もちろん決められた量を調節して与えれば、そこそこのものができますが、カブなどでは、えぐ味が生まれてしまいます。フレンチやイタリアンのシェフに聞くと、「えぐ味のない甘くてジューシーなカブを作ってくれたら、言い値で買うよ」と言います。フレンチはソースを楽しみますから、カブが辛かったり、えぐ味があったりしたら、ソースがおいしく味わえないわけです。

そこで私は、学生たちと一緒に「もものすけ」という品種名のカブを作りました。何と、皮がモモのように手でむけるのです。そして、中からピンク色の組織が出てきます。それを生食すると、アミノ酸たっぷりですごく甘いのです。野菜本来の甘さです。学生も感激していました。もちろん皮に栄養があるので、むく必要はないのですが、もものすけは本当に珍しいです。包丁などを入れずに、つるんと手で皮がめくれます。そうしたカブを家庭菜園で作ってもなかなかうまくいかないかもしれません。そういったものをどうやって作ればいいでしょうか。

それから、糖度 13 度のミニトマトです。普通、スーパーで売られているのは、甘いものでも糖度が 7~8 度程度で、10 度あれば相当甘いです。しかし、このミニトマトを福島で作ったところ、一応 13 度まで出たのです。当時は曇天続きで、日射量が平年と比べて非常に少なかったのですが、曇天続きの中で 11 度出ました。この糖度 13 度のトマトはどうすれば栽培可能になるのでしょうか。今は良い時代で、汁を 1 滴搾って落とせば糖度や酸度を測定できる器械が出ていますので、単なる経験と勘ではなく、先ほどの稲垣さんのようにノートを作って、どの肥料をやったら糖度が高かったか、酸度が高かったかをメモしたり、ネット上で情報を調べたりして、来年は糖度 9 度に挑戦しよう、10 度に挑戦しようということができるわけです。これも経験してみないと得られない喜びなのですが、ワクワクして早く来年が来ないかなという状況になります。

それから、長さ 1m の守口ダイコンを家庭菜園で作る方法です。守口ダイコンは愛知県の名産で、最も長いもので 1m91cm あったといわれています。平均 1m20cm 程度で、太さが 2cm 程度です。これが歴史的に面白くて、守口というのとは一体どこを指しているのか、なぜこんなに長いダイコンを酒粕に漬けて食べるのか、そういったことを考えると諸説あるのですが、ワクワクするのです。豊臣秀吉や千利休なども出てきて、守口ダイコンの秘密が解き明かされていく喜びが本当にたまりません。



当日の様子

それから、福助菊の合理的施肥法です。福助菊は茎と葉のバランスが重要で、菊花展で並べるときに、少しずつ後ろの方が高くなります。どの順番でどの色の品種を並べたかが重要で、品種も変えないといけないので、かなり力が要るわけです。それを小西国義先生は、「肥料の与え方に合理性があるなら、その方法は簡単にマニュアル化できるはずで、そのとおり再現すれば経験が浅い人でも菊花展に入賞できる立派な菊が作れるはずだ。そうでなかったら、科学ではないよ」と常々おっしゃっていました。実際にマニュアル化されて、そのとおりに栽培した経験の浅い方が菊花展で優勝したのです。そういうふうにして、理屈はやはりちゃんとあるのだ、偶然いいものができるわけではないのだというところに、園芸の面白さがあります。

それから、ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法です。ヒマワリの生態からすると、もちろん栽培環境によって植物の生長は変わりますが、山菌さんの栽培法に私なりの育て方として技術をあと三つほど追加すれば、ギネス記録も夢ではないのではないかと考えています。ヒマワリは日当たりの強い所で育つ陽生植物であること、それから世界記録がドイツで出されていることは偶然ではないと思うのです。そういったことを考えていただくと分かってきます。実際、光の与え方によって花の数が大きく異なるのです。ですから、ヒマワリは光にすごく影響される植物でもあります。

開かれようとしている新しい科学の扉

実は今、面白い時代に入っていて、科学の分野では、植物にも知性があるのだといわれ始めています。現代科学でそれが見事に説明できなければ、それは疑似科学といわれてしまいますが、現代科学でまだ証明できなくても、いずれ科学が進歩していけば証明される日が来るかもしれません。ですから、ちょうど今は新しい扉が開かれようとしている時期なのです。

IKEA という大きな家具店が、植物に罵るような声を掛けた場合と優しく褒めた場合で、植物の生長がどう異なるかという実験をしました。すると、ずっと褒め続けた植物の方がよく育ったのです。いじめ撲滅のためのチャレンジだったようですが、この現象は 1960 年代半ばにクリーヴ・バクスターという CIA の技術者が既に発見していました。しかし、なかなか再現性のあるデータとして証明しづらかった実験をビッグネームの IKEA が行ったので話題になりました。

それから、ステファノ・マンクーゾというイタリア・フィレンツェ大学の先生が非常に注目されていて、『植物は<知性>をもっている』『植物は<未来>を知っている』という著書にはなかなか面白いことが書かれています。

さらに、科学雑誌でも「植物に知性はあるだろうか。科学は最近そのように考え始めている」という記事が 2019 年 3 月に掲載されました。生体電位といって、われわれの心電図を測るように植物の生体リズムを電気信号として捉えて、音楽の音源にするという試みが行われています。銅金裕司先生という方が最初に行ったのですが、そういったデバイスが各社からいろいろ出ています。そうしたものによって植物の生長リズムが音として再現され、会話ができるのではないかともしられています。

皆さん、どうでしょう。私は新しいことを紹介したいというよりも、植物を育てて、植物との会話を楽しんでいただければという思いでトピックをご紹介します。

質疑応答

- (Q) 林先生ご自身が植物の研究とは別にプライベートで取り組まれていることはありますか。
- (林) 私は職業柄どうしても、純粋にプラント・ラバー（植物の愛好家）としてではなく、研究対象として見てしまうところがあるのですが、これから障害者や高齢者が休耕田などで農業をどんどんできるようにしていきたいので、やはり純粋に憩いの対象、癒やしの対象として、農業を何か福祉やSDGsにつなげていきたいと考えています。
- (Q) 資材高騰のあおりを受けて、野菜や水稲だけでなく花き産業も打撃を受けることが想定されます。土壌医学や生物学を学びながら家庭園芸を継続できる道筋を個人的に模索しているのですが、他に何か学ぶべき分野はあるでしょうか。
- (林) やはり園芸は歴史文化や地理学なども含めて考えないといけないので、特定の学問を深く追究するというよりも、何か疑問が生じたときに広く百科事典のようなところから探してくるような勉強になると思います。
- 何か特定のタイトルが付いた学問を学ぶよりも、美術や文化のようなところにもヒントは転がっているわけです。今はネット時代で、ちゃんとしたサイトを探せばいろいろな情報が手に入りますので、それをきっかけに死ぬまで勉強というの大袈裟ですが、教養を広める努力をされたら人生が楽しくなるのではないかと思います。

●発表資料

花博記念協会設立30周年記念フォーラム
2022年3月24日 Zoomウェビナー
「花のある新しい暮らし」

花を栽培することの愉しみ

近畿大学農学部
林 孝洋

本日のお話

- お二人の熱烈なプラント・ラバー
 - 稲垣さんの大菊作り
 - 山藺さんの日本一背が高いヒマワリ
- 難問に挑む大切さ
- 奥が深い「園芸の難問」
 - えぐ味のない甘いカブ
 - 糖度13度のミニトマトを作る
 - 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で
 - 福助菊の合理的施肥法
 - ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法
- 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

本日のお話

- お二人の熱烈なプラント・ラバー
 - 稲垣さんの大菊作り
 - 山藺さんの日本一背が高いヒマワリ
- 難問に挑む大切さ
- 奥が深い「園芸の難問」
 - えぐ味のない甘いカブ
 - 糖度13度のミニトマトを作る
 - 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で
 - 福助菊の合理的施肥法
 - ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法
- 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

① 80代半ばの稲垣さん

老後、趣味の「大菊作り」に没頭。全国規模の菊花展に入賞することに情熱を燃やされた。どうすれば良い菊ができるか？最後まで知的好奇心は衰えず、行動も広く、積極的であった。

●趣味カブ

農業技術大系(農文協)における小西国彦先生の記述より

趣味家にとって年に一度の大きな目標

日本菊花全国大会

全国の菊作り名人が技を競う！菊作り日本一決定戦

第38回 日本菊花全国大会

ALL JAPAN CHRYSANTHEMUM EXHIBITION 2021

期間: 2021年09月20日(水)~11月23日(火) 会場: 同楽園・二色の秋の里(兵庫県) 入場無料

株式会社国華園のHP (<http://www.kokkaen.co.jp/kikkaten/index.html>)より引用

本日のお話

- お二人の熱烈なプラント・ラバー
 - 稲垣さんの大菊作り
 - 山藺さんの日本一背が高いヒマワリ
- 難問に挑む大切さ
- 奥が深い「園芸の難問」
 - えぐ味のない甘いカブ
 - 糖度13度のミニトマトを作る
 - 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で
 - 福助菊の合理的施肥法
 - ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法
- 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

② 大阪府貝塚市の山藺さん

山藺さんの2015年度の記録は7.20m

ギネス世界記録のHPより引用

世界一背の高いひまわりって、何センチ？「ひまわり男」とギネス世界記録 | ギネス世界記録 (guinnessworldrecords.jp)

ハンス・ピーター・シファーさん: 9.17m

本日のお話

- お二人の熱烈なプラント・ラバー
 - 稲垣さんの大菊作り
 - 山藺さんの日本一背が高いヒマワリ
- 難問に挑む大切さ
- 奥が深い「園芸の難問」
 - えぐ味のない甘いカブ
 - 糖度13度のミニトマトを作る
 - 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で
 - 福助菊の合理的施肥法
 - ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法
- 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

カリフォルニア工科大学の「ブルーフロック・ハウス」のモットー

大きな問題について考える。そうした問題が重大だからではない。取り組み甲斐があり、人の心を勇み立たせ、また、不朽だからだ。

一生、「なぜ？」と問い続けられる問題を持てれば、いつも知的好奇心でワクワクした毎日を送ることができる。分かった時の達成感言葉にできないくらいうれしいもの。これが生き甲斐。

本日のお話

- お二人の熱烈なプラント・ラバー
 - 稲垣さんの大菊作り
 - 山藺さんの日本一背が高いヒマワリ
- 難問に挑む大切さ
- 奥が深い「園芸の難問」
 - えぐ味のない甘いカブ
 - 糖度13度のミニトマトを作る
 - 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で
 - 福助菊の合理的施肥法
 - ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法
- 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

塚本洋太郎著 「園芸の時代」NHKブックス(1978年)

「人間としての自由があり、人間の尊厳が認められている条件下で、現代の管理社会の必要悪が、園芸によって救われるのであれば、園芸は貴重な行為であると言える。管理社会における人間疎外は、自然に触れることによって癒やされるといわれるが、園芸で扱われる小自然は第二自然であり、代償の自然である。それでも、植物は人間の栽培作業に対して、正直に反応してくれる。植物の生長、開花が手入れによって調節されることは、無機的社会で働くものにとっては喜びであり、植物の反応は期待となって、明日の生活に活力を与えてくれるであろう。」





本日のお話

- お二人の熱烈なプラント・ラバー
 - ① 稲垣さんの大菊作り
 - ② 山園さんの日本一背が高いヒマワリ
- 難問に挑む大切さ
- 3. 奥が深い「園芸の難問」**
 - ① えぐ味のない甘いカブ
 - ② 糖度13度のミニトマトを作る
 - ③ 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で
 - ④ 福助菊の合理的施肥法
 - ⑤ ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法
- 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

3. 奥が深い「園芸の難問」

本日のテーマは「花」ですが、野菜にまで問題を広げて考えてみましょう。綺麗な花、美味しい野菜を作るためには、色んな知識が必要です。さながら、数学の難問を解くような面白さがあります。

今西英雄著「花卉園芸学」(川島書店)より
図1.1 自然科学およびその技術に関する関係者 (Steink, 1990より)

3. 奥が深い「園芸の難問」

さあ、チャレンジ!

① えぐ味のない甘いカブ

複合肥料ではなく、単肥を用いると、えぐ味や辛味のない甘いカブが作れます。写真は手で皮がむける「ものすけ」。アミノ酸が多く、野菜本来の甘味がある。

形態観察 → 植物を理解する基本

3. 奥が深い「園芸の難問」

さあ、チャレンジ!

② 糖度13度のミニトマトを作る

スーパーで売っているミニトマトは、甘くても糖度は「8度」程度。このミニトマトは糖度が「13度」あります。どのようにすれば可能でしょうか?



エビデンスをしっかりと得る

デジタル糖・酸度計で科学的に研究!

経験と勘ではなく、数値データを基に栽培法を工夫する。

株式会社アタゴのHPより引用

3. 奥が深い「園芸の難問」

さあ、チャレンジ!

③ 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で

直径約2cm、長さ1mの細長い大根を、まっすぐ折らずに作れますか? 粕漬けに向けており、お茶漬けにすれば、最高のお漬物となります。

なぜ現在は愛知名産? 歴史的考察も楽しい!

残そう! 伝統野菜! 守口大根

人気も長〜く! 葉も甘〜い!
「守口」で育たれれば美味しい。
葉はほんの、赤はほんのいよしが甘〜い。
なすに漬けて、お漬物で食べる。葉は葉に漬けてから、お漬物に混ぜる。葉も漬けても美味しい。
菊アサヒ農園の種子

(守口大根と守口漬 (sakura.ne.jp)より引用)

3. 奥が深い「園芸の難問」

さあ、チャレンジ!

⑤ ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法

ヒマワリの生理・生態的特徴から推察すると、山園さんの栽培法に、あと3つ「技術」を加えると、記録を伸ばせると考えます。ヒマワリが「陽生植物」であることと、世界記録がドイツで出されていることが重要です。

小西先生のマニュアル通りに栽培して菊花展で優勝!

福助菊の出品には、細かなルールがあります。矮化剤(わいかざい)を使って、草丈を短くします。花と葉のバランスが重要!

3. 奥が深い「園芸の難問」

さあ、チャレンジ!

④ 福助菊の合理的施肥法

「肥料の与え方に合理性があるなら、その方法は簡単にマニュアル化できる。そして、その通り再現すれば、経験の浅い人でも、菊花展で入賞するような立派な菊が作れるはずである。」(小西談) 特に、窒素肥料の与え方が重要です。どのように施与量を決めるか、推察できますか?

切花ヒマワリについて、色々研究しておりました

図 ヒマワリの花色、花序の形態ならびに大きさの測定部位
di: 頭状花序の直径, dt: 管状花部分の直径

「光」はヒマワリの生長に大きな影響を与えます

di = 13.0 dt = 5.2	di = 13.8 dt = 7.0	di = 14.2 dt = 5.3 (cm)
-----------------------	-----------------------	----------------------------

Control 舌状花数= 26.8 管状花数=452.0	EOD-R 舌状花数= 39.0 管状花数=770.0	EOD-FR 舌状花数= 22.4 管状花数=222.2
-------------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------

図 明期終了時の赤色・遠赤色蛍光灯補光が「サンリッチ フレッシュオレンジ」の花序形態に及ぼす影響

本日のお話

- お二人の熱烈なプラント・ラバー
 - 稲垣さんの大菊作り
 - 山藺さんの日本一背が高いヒマワリ
- 難問に挑む大切さ
- 奥が深い「園芸の難問」
 - エグみのない甘いカブ
 - 精度13度のミニトマトを作る
 - 長さ1mの守口ダイコンを家庭菜園で
 - 補助菊の合理的施肥法
 - ギネス記録を目指すヒマワリの栽培法
- 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

Bully A Plant: Say No To Bullying
https://www.youtube.com/watch?v=Yx6UgQreYY&feature=emb_title
<https://nazology.net/archives/9534>

IKEAが実験! 「いじめた植物」と「褒めた植物」で成長の差が歴然

ANIMALS_PLANTS 2018/05/10

IKEA UAEがいじめの防止啓発のため、興味深い実験を実施して話題になっています。それは、「植物をいじめると成長に影響はあるのか？」を確かめるものです。

実験では2つの同じ種類の植物を、日射量、水量、肥料の量などを同条件にして学校に設置。片方には「優しく、愛のある言葉」をかけ、もう片方は「悪口などのネガティブな言葉」を浴びせました。

Bully A Plant: Say No To Bullying
https://www.youtube.com/watch?v=Yx6UgQreYY&feature=emb_title

ポジティブな言葉とネガティブな言葉、それぞれが録音されたレコーダーを30日循環し、聴けた結果...

この植物は褒められています
この植物はいじめられています

Bully A Plant: Say No To Bullying
https://www.youtube.com/watch?v=Yx6UgQreYY&feature=emb_title

まるで植物に感情があるかのようです。これを見た子どもは、悪口やいじめには言葉の威力を恐れたネガティブパワーが内包されていると感じるでしょう。

4. 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

植物は未来を
知っている

植物は「知性」を
もっている

いとうせいこう氏推薦!!
私は、彼らにユーモアさえ感じる。

いとうせいこう氏推薦!!
この著者は、植物が何の世界に放ったメッセンジャーだ。

4. 開かれようとしている新しい科学の扉:
Plant Intelligence

28 MARCH 2019

Are plants intelligent? Science is beginning to think so.

Written by Zack Sterkenberg

ご清聴ありがとうございました

基調講演③



「花のある新しい生活」

咲くやこの花館 館長 城山 豊

花博から私が受けた影響

私は昨年4月より、「咲くやこの花館」にお世話になっています。咲くやこの花館は、1990年に開催された国際花と緑の博覧会で大阪市のパビリオンとして設立された施設です。

当時、私は京都府立植物園に勤務していて、近くだったので、花の万博には何度も訪れました。どのパビリオンも人でいっぱい、咲くやこの花館も行列に並ばないとなかなか中が見られないほどでした。期間中、咲くやこの花館の入館者数は400万人と聞いています。

花の万博で大変印象に残っているのは、世界の珍しい植物にたくさん出会えたことです。特に話題になったのはヒマラヤの青いケシ、メコノプシスです。これは今でも咲くやこの花館で見ることができますが、当時は大変話題になって、たくさんの人が並んでいた記憶があります。また、グンネラというブラジルの植物もありました。暑さにあまり強くないのですが、アスファルトの上に突如巨大な植物が姿を現したことも大変記憶に残っています。また、これまでお目にかかる機会が少なかったオーストラリアの植物をたくさん見ることもできました。

次に印象的だったのは、花の見せ方です。特に立体的な展示がたくさんあり、これが後のハンギングバスケットなどにつながっていったのではないかと考えています。

それから、花壇への宿根草の利用です。当時の花壇は一年草で絵を描く形で作られたものが多く、いろいろな種類の宿根草を組み合わせた花壇は大変斬新だったので、非常に印象に残っています。これらの花の万博のいろいろな試みが、後のガーデニングブームを起こしていったと考えています。

その6年後、1996年に草津市立水生植物公園みずの森が開園し、私は京都府立植物園からそちらに移りました。当時は花の万博のおかげでガーデニングブーム、特にイングリッシュガーデンブームが起こり、園芸に携わる者には大変いい時代だったと思っています。

水生植物公園の花影の池には、オーストラリアのスイレンであるギガンティアがあります。ギガンティアは「巨大な」という意味で、花も葉もととても大きいです。池に浮かんでいるのを離れて見ても、なおダイナミックな印象があります。水の上にはハンギングバスケットも浮かべています。これらの展示を振り返ってみると、海外の珍しい植物や新しい展示の仕方を花博で見せていただいたときの影響を受けているように思います。

同じく花影の池には、耐寒性スイレンがあります。モネが絵を描いたことで世界中で広く知られるようになったスイレンですけれども、モネが絵を描いたのは今から120年ほど前であり、その頃に作られたスイレンが今でも世界のいろいろな所で育てられています。スイレンは大変長寿の生き物なのだと改めて思います。

近くにはパラグアイオニバス、ミズカンナ、日本の野生のフトイなどがあり、日本や世界の野生植物、園芸植物、さらにはハンギングバスケットを組み合わせた展示となっています。花影の池という名称は、水に映る花の影を楽しんでほしいという思いから一般の方が名付けました。

夏の終わりごろには、池全面をパラグアイオニバスが覆います。大変迫力のある展示になっているのですが、みずの森の展示ではご覧になった方が感動するようなものを心掛けて植栽していました。当時はガーデニングブームで、お店に行けばいろいろな植物が手に入りまし、大勢の人が植物園を訪れる大変いい時代だったと思います。

社会の変化と園芸の楽しみ方の変化

しかしながら、社会状況は徐々に変化しています。高度経済成長期に一人当たりの緑地面積が減少したためたくさんの公園が造られましたが、現在は人口が減少し、新たな公園はだんだん造られなくなりました。それだけでなく、管理もだんだん不十分になり、場合によっては公園をつぶしてしまうケースも生じています。また、税収の減少により、公園施設の維持管理経費がだんだん削減され、これまできれいなお花で飾られていた美しい公園も減ってきていると思います。それから指定管理者制度が導入され、これまで公共で管理していた公園や植物園の運営は厳しい状態が続いています。

一方、個人の皆さんの園芸の楽しみ方も変化してきていると思います。まず、屋内で育てる植物に人気が集まっています。また、コーデックスとって茎や根が塊になる植物や、多肉植物の人気が高まっています。きれいな花が咲く植物よりも、形の面白い植物を好む人が増えています。こうした人たちはネットやSNSなどから情報を集めており、従来の趣味の会には入らずに個人で楽しむ傾向があります。

これまで日本の伝統園芸植物は、趣味の園芸団体によって守られてきたものがたくさんありますが、そうした植物の担い手がだんだん減ってきています。趣味の団体に平均年齢を尋ねると70代、若くて60代というところが多く、この先の日本の園芸、特に昔からある伝統園芸はどうなるのかと危惧しています。また、住宅の構造も変化しており、以前は家を建てれば庭や生け垣を造ったものですが、今はそのスペースがほとんど駐車場に替わっていると思います。

今の時代に求められているのは、持続可能なガーデンではないかと考えています。まちなかの緑が減少した代わりに、コミュニティガーデンのニーズが高まっていると考えます。コミュニティガーデンとは、住民が地域内で共同で管理する花壇のことです。これらを維持管理するための予算も削られており、ボランティアによる運営への依存度が高まっています。

一方で、ボランティアが管理する公園の花壇などには、以前から一年草の種苗がよく配付されていましたが、ガーデニングブームを経験した多くのボランティアの皆さんにとっては、一年草の花壇の魅力がだんだん薄れてきて、ボランティアをする以上はやりがいのある美しい花壇を作りたいと望むようになってきていると思います。また、気候変動により夏の気温がものすごく高くなっており、猛暑の中での除草作業や灌水作業をボランティアで継続するのは難しいという側面も発生していると考えています。

エルフガーデンの提案

そこで、私が提案したいのがエルフガーデンというものです。私が兵庫県立大学淡路緑景観キャンパス在職時に考案したもので、ボランティアによる維持管理を前提に考えています。特

徴としては、夏の除草労力を軽減するような植栽を行い、宿根草を中心に次年度以降の種苗費を削減します。植物の形やテクスチャーを生かし、多様な植物を使用した複雑なデザインを考えます。また、オーナメンタルグラスを使用した自然風のデザインとなるようにします。これらのことを実施するためには、植物の知識や管理技術が必要となり、そのための人材育成が必要であると考えています。

では、具体的にどのような手法によって実現するかというと、まず一つ目に、園芸植物をグランドカバープランツ（^{ほふくせい}匍匐性植物）として利用することで、雑草の発芽を抑制します。特に一年草や非耐寒性多年草などのグランドカバーを使うと、成育が終わると全部抜き捨てることのできるため、雑草の抑制効果が高くなります。耐寒性多年草をグランドカバーに用いる場合もありますが、この場合は事前にしっかりと多年生雑草の地下部を取り除いておくことが必要になります。デメリットとして毎年植えるということはその分経費が発生しますが、全体を植え替えるわけではないので、金額的には少ない経費で済むと思います。

二つ目に、宿根草を利用して次年度以降の経費を削減します。これにはデメリットもあって、対処法が求められます。まず、株分けや移植などの労力が必要です。宿根草は一度植えたら放っておいてもいいと思われるかもしれませんが、そうではなくて、植物の種類によって適切な管理が発生します。しかし、夏の除草労力を減らした分、秋から春までの過ごしやすい時期に労力が発生するので、年間の労力分散を図ることができます。それから、初年度は一年草より宿根草の苗代が高くなるため、経費が上がります。しかし、植栽数を植物の大きさに合わせて減らすことで、それほど高額にはならないと考えています。また、開花時期の短いものが多いのですが、いろいろな種類を組み合わせることによって解消することができます。実際にこれらのことを運営するためには知識が必要であり、やはり知識を積み上げていくことは大変重要だと思っています。最後に、雑草対策が一年草花壇と異なり、動かない植物があると多年生雑草が残ります。これにきちんと対処することが必要で、雑草をやみくもに取ってしまうのではなく、きちんと見分けて対処する必要があると考えています。

三つ目に、オーナメンタルグラスの利用です。オーナメンタルグラスとは、観賞用のイネ科やカヤツリグサ科の植物のことです。メリットとしては、何となく野原のような自然の景観を生み出すことができます。丈夫で手間がかからない種類が多く、比較的大型になるので、植栽数を減らすことができ、経費削減ができます。一方、注意することとしては逃げ出して雑草化し、種類によっては周囲の環境に悪影響を与える可能性もあります。そのため、地域で広がり



当日の様子

やすいと判断したときには速やかに取り除くことが必要だと思います。また、手間がかからず大きくなるという話をしましたが、逆に大きくなり過ぎて困っているという状況を最近よく目にします。オーナメンタルグラスは少しずつ人気が出ていて植栽されることがあるのですが、放っておくと大きくなって手に余ってしまうので、常にサイズダウンを図ることで、ちょうどいい大きさを維持する必要があります。

四つ目に、カラーリーフプランツの利用です。カラーリーフプランツとは、葉の色を觀賞する植物の総称で、葉が付いている間はずっときれいに見えるものが多いです。花の場合は、花の時期が終わってしまうと觀賞できませんが、カラーリーフプランツはずっと觀賞できるので、少ない経費で明るい景観を作ることができます。葉の色だけでなく、葉の形や質感、茎の色など、花以外にも目を向けることでより複雑な花壇を目指すことができます。ガーデニングブームを経験した目の肥えた愛好家は、単純な一年草花壇では満足できなくなっており、これまでの日本の花壇とは違うものを求める人が多くなっているため、そうした人にも満足できる花壇になると思います。

五つ目に、自然風に見せるための手法です。コミュニティガーデンはまちなかの緑を楽しむことが趣旨ですので、自然風のものの方が人々に好まれるのではないかと考え、自然風に見せるための手法を考えました。まず、風にそよぐ形態の植物を配置します。主にオーナメンタルグラスになりますが、同様に利用できる植物は他にもあります。それから、複雑な植物の配置を行います。人間が植えるとどうしても等間隔になったり直線になったりしがちなため、これを意図的に不規則に配置します。さらに、こぼれ種で増える植物を利用します。人が思いも付かないような所に勝手に生えてくることによって、デザインの人工的な印象から随分違ったものになります。それから、大輪の花を咲かせる植物はできるだけ使わないようにします。大きな花はどうしても支柱がないと倒れてしまい、支柱のような人工的なものがあるとガーデン全体の雰囲気が人工的になってしまうので、支柱がなくても倒れない植物を選びます。こうして多様な種類の植物を植栽すると、生態系が安定して病害虫が発生しても一部だけで終わりますし、農薬散布をしなくても済むので、経費も削減できると考えています。

実際のエルフガーデンの例としては、私が在職時に造った兵庫県立大学淡路緑景観キャンパスのほか、兵庫県明石市にある明石公園内の花と緑のまちづくりセンターの屋上庭園があります。

自分の美しさを探してみよう

植物というのは、自分の美しさを探してみるのも楽しいと思います。植物にはいろいろなものがあって、それぞれをよく観察するといろいろなものが見えてきます。今まで見えていなかったいろいろなものが、実は見えてくるのです。そんなものを探してみようという活動をボランティアの皆さんと一緒にしています。

フラワーポスト

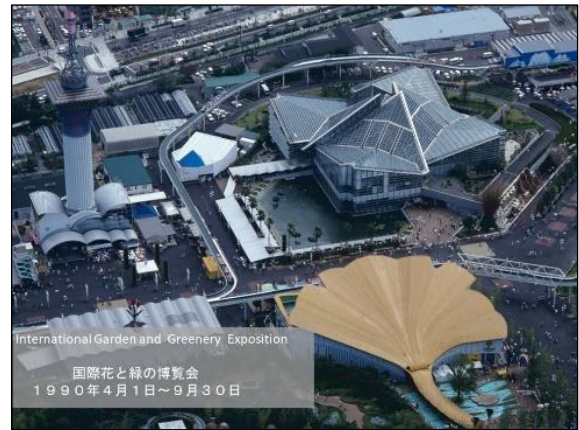
ここでもう一つご紹介したいと思っているのが、フラワーポストというものです。咲くやこの花館の入り口にも飾っている自立式のフラワースタンドで、ハンギングバスケットを飾ることができます。木製で簡単に作成でき、簡単に持ち運びができます。先ほどもちょっとご紹介しましたが、住宅の周りの駐車スペースになってしまった所に一つ飾ってみてはいかがでしょうか。

まちなかを美しくするコミュニティガーデンと、家の周りにちょっとした花のポイントを飾るフラワーポストの二つの提案をして、私の話を終わりたいと思います。

質疑応答

- (Q) エルフガーデンのことを初めて聞きました。どこで生まれたものでしょうか。
- (城山) 私が名付けたものなので、どこかにあったものではなく、先ほどのような条件をそろえたものをエルフガーデンと呼びたいと考えています。
- (Q) これは、いつ頃名付けられたのですか。
- (城山) 今から6年ぐらい前です。

●発表資料



咲くやこの花館の入館者 400万人 (花博全体入場者 2312万人)

私の花博の体験

- ・世界の珍しい植物 ヒマラヤの青いケシ、グンネラなど
 - ・花の立体的な展示 後のハンギングバスケットへ
 - ・花壇への宿根草の利用
- ↓
- ・後にガーデニングブームへと



社会状況の変化

- ・緑地の充足 人口の減少
新しく公園は作られなくなった
- ・公園施設の維持管理経費の減少
美しい公園の減少
- ・指定管理者制度の導入

園芸の楽しみ方の変化

- ・ハウスプランツ
- ・コーデックス・多肉植物
- ・個人で楽しむ 会に入らない
- ・ネット情報
- ・伝統園芸植物の担い手の減少
- ・住宅の構造の変化 庭から駐車場へ

持続可能なガーデン

- ・個人宅の庭の減少により
コミュニティガーデンのニーズの向上
- ・公園維持管理経費の軽減
- ・ボランティアのやりがいのある美しい花壇
- ・気候変動による猛暑化への対応

エルフガーデンの提案



- 夏の除草労力を軽減する植栽
- 宿根草を中心に次年度以降の種苗費削減
- 植物の形やテクスチャーを生かし、多様な植物を使用した複雑なデザイン
- オーナメンタルグラスを使用した自然風のデザイン
- 活用するためには、植物の知識や管理の技術が必要となる。人材育成と共に

エルフガーデンの植え方とデザイン手法
マネジメントから見た植物選定 I

グランドカバープランツ(匍匐性植物)の利用

メリット

雑草の発芽を抑制できる。特に一年草、非耐寒性多年草などの匍匐性の種類を使うと、雑草抑制の効果が高い。

耐寒性多年草を用いる場合は、事前にしっかり多年生雑草の地下部を除去する。

デメリット

耐寒性多年草以外は毎年経費が発生するが、全てを一年草で植栽するより少ない。

※ポイント 雑草を抜く順番を知る

エルフガーデンの植え方とデザイン手法
マネジメントから見た植物選定 II

宿根草の利用

メリット

- ・次年度以降の経費削減

デメリットと対処

- ・株分けや移植などの労力必要 → 労力分散
- ・初年度の経費が高い → 植栽数を減らすこと
- ・開花時期の短いものが多い → 多種類を組み合わせる
- ・活用するためには、開花時期や草丈、栽培条件など知識が必要となる。
- ・雑草の対策が一年草花壇と異なる → 多年生雑草の除去

エルフガーデンの植え方とデザイン手法
マネジメントから見た植物選定 III

オーナメンタルグラスの利用

メリット

- ・野原のような自然の景観を生み出すことができる。
- ・丈夫で手間がかからないものが多い。
- ・比較的大型になるため、植栽数を減らし経費削減ができる。

デメリット(注意すること)

- ・逸出して環境に悪影響を与えることがあるものもある。
- ・大きくなりため、常にサイズダウンを図る。

エルフガーデンの植え方とデザイン手法
マネジメントから見た植物選定 IV

カラーリーフプランツの利用

メリット

- ・花による装飾に比較し、少ない経費で明るい景観を生み出すことができる。
- ・葉の色だけではなく、葉の形やテクスチャー、茎の色など様々な側面に目を向けると、より複雑な花壇を生み出すことができる。

ガーデニングブームを経験した目の肥えた愛好家は
単純な一年草花壇では満足できなくなっている。

エルフガーデンの植え方とデザイン手法
マネジメントから見た植物選定 V

自然風に見せるための手法

- ・風にそよぐ形態の植物を配置→オーナメンタルグラス等
- ・不規則な植物の配置
- ・植物に任せる 実生で生える植物の利用
- ・大輪の花を咲かせる植物を使わない
- ・支柱などの人工的なものをできるだけ使わない
- ・多様な種類の植物の植栽→安定した生態系、省農薬





花だけが美しいわけでは
ありませんね。
みんなにも教えてあげよう。

最後にもう一つ



フラワーポスト

自立式フラワースタンド
木材で簡単に作成、
簡単に持ち運びでき、
倒れない

お好きな場所にハンギングバスケット
が飾れます。

住宅の周りの駐車スペースにいかが
でしょう？



ご清聴ありがとうございました

パネルディスカッション



コーディネーター

キャスター・ジャーナリスト 須磨 佳津江

パネリスト

尾室 義典 農林水産省農産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室室長

林 孝洋 近畿大学農学部 教授

城山 豊 咲くやこの花館 館長

〈須磨〉 ここからはトークセッションとして、ご講演いただいた3名の方に加わっていただき、これからの時代、もっと楽しく、もっと幸せになるように、花とどう暮らしていけばいいかというテーマで話を進めていきたいと思います。

オープンガーデンで学んだ花の可能性

〈須磨〉 3人の皆様にご講演いただき、それぞれの皆様の花との関わりをご理解いただけたと思いますので、最初に、私と花との関わりから話を始めさせていただきます。私は元々NHKのアナウンサーで、「趣味の園芸」という番組を担当したことを直接のきっかけとして、花と緑に関わるようになりました。番組を通し、いろいろな方々にお目にかかるとう、花や緑に関わる人は皆さんすごく優しいのです。そして、幸せそうな笑顔を持っていらっしゃいます。これはなぜだろうと、謎解きからはじまりました。

そして、徐々に分かってきました。まず、種をまいて芽が出ると、ワクワクします。茎が伸びて、葉っぱが出て、つぼみが膨らむともうすぐ咲くかなとドキドキします。そして、花が咲いたらニコニコします。私は、このワクワク・ドキドキ・ニコニコは人生の幸せの3要素だと思っています。だから、園芸をやっていると、みんなあんなふうに幸せそうな笑顔なのではないかと考えました。その笑顔の質が、自分が得をしたときの笑顔ではないことにも惹かれました。ある園芸の先生が「技術で素晴らしい花を咲かせているんじゃないんです。どんなに技術を駆使しても、太陽の力、土壌の力にはかなわない。おてんと様にはかなわないとつくづく感じるんだよね」とおっしゃっていました。つまり、花という命と付き合っていると、自

然の偉大さに気づき、人間は謙虚になるのだと合点しました。

そうした謎解きをしているうちに出合ったのがオープンガーデンでした。個人の庭を誰にでも開放するオープンガーデンです。何て優しい人々がいるのだろうと思って私が訪ね始めたのは、25年ぐらい前のことでした。当時はオープンガーデンという言葉がまだ世の中に浸透していなかったのですが、訪ね歩いているうちにちょうどガーデニングブームと重なって、徐々に増えていきました。

花は命あるものですから、輝きのある瞬間は一定のものであります。その一番きれいな状態を皆さんにも楽しんでもらいたいという喜びのおすそ分けがオープンガーデンの心ではないかと思えます。写真を見ていただければわかるように、オープンガーデンがどこにあるのかは一目瞭然で、外回りは花でいっぱい！中に入れば大勢の人が訪れていて、ニコニコと話をしています。それが知らない人同士だと知り、花を間に挟めば誰とでも話が出来、花は人をつなぐと知りました。

その後、オープンガーデンが増えてきて、広さに余裕のある所ではガーデンセットを出して、ゆったりと自分の庭を楽しんでもらおうというところもでてきました。自分でお金を出して庭を造り、無料で開放するだけでも何て親切な人々なのだろうと感動しますが、さらに感動したのは、オープンガーデンをしている方々の多くが、「多くの人が喜んでくれて私はとても幸せだ」とおっしゃるのです。当時はちょうど、自分さえ良ければいいという事件が多かった時期で、人が喜んでくれることを自分の幸せにできる人々が増えたらどんなに社会が良くなるだろうと思ひ、オープンガーデンをする人を増やしたいと思うようになりました。

ところで、花はいいよねと多くの人がおっしゃいますが、単なる趣味という発想からなかなか進まないのは、何故だろうとよく考えます。

最近、SDGsとともに、「バイオフィリア」という言葉がよく使われるようになりました。命や自然という意味の「バイオ」と、愛好するという意味の「フィリア」をくっつけた造語で、アメリカの生物研究者が提唱したものですが、要は人は自然とのつながりを求める本能的な欲求があるということを示す言葉だそうです。人間のDNAの中に、植物と共にいなければならないという本能が備わっているということです。これからの時代はバイオフィリアがキーワードになるのではないかと……その一つが花と共にある暮らしではないかと思ったりしているところです。

花は人にとってどんな存在か

〈須磨〉　ということで、今回のテーマである「花のある新しい暮らし」に基づき、お一人ずつに質問させていただこうと思ひます。まず最初に尾室さん、花は人にとってどんなものだと思いますか。

〈尾室〉　なかなか難しい質問です。私は農林水産省で主に食べ物を担当してきたのですが、人は食べないと死んでしまうので、食べ物の必要性は非常に説明しやすいのですが、花は決してそうではありません。一方で、万葉の頃から花は人々の生活に密着していました。ですから、花をめぐるというのは、DNAに刷り込まれた、人間が生まれ持った本能なのだろうと思っています。先ほどのオープンガーデンの話聞いていて、お花はみんなでも共有できる、コミュニケーションの道具としても非常に優れているということが、昔からお花がめでられてきた秘密なのかなと感じました。

〈須磨〉 確かにそうですね。喜びを共有できることが花の良さかもしれませんね。林さん、いかがでしょうか。

〈林〉 今日のお話をいろいろお聴きしていて、人それぞれの喜びの表現法の一つではないかなと思います。本当に花は美しいし、大好きだから作るのですが、先ほどおっしゃったように人に見せたくて、私がアメリカにいたときも本当にアメリカ人は見せたり屋で、本当にオープンガーデンの連続なのです。そして、「今年はこんな庭を造ったのよ」と言って、お互い見せ合います。やはり人に見せて喜んでほしいという人にとってはそれが喜びの表現法でしょうし、私自身はどうかと考えたら、本当に植物が好きなのですが、それよりも自分で考えて工夫した結果を確かめられる喜びの方が大きいと思います。

そうすると、なかなか一つに帰結しにくいのですが、人それぞれ自分の中で「良かった」だけではなくて、喜びを表現する一つの方法になっているように思います。もちろんおっしゃったように、人間は植物がないといらいらするという性質は持っているのですが、それをどう喜びとして表現するのかというときに、人によっていろいろ違いがあるのではないかと思います。

〈須磨〉 城山さん、いかがですか。

〈城山〉 人によっていろいろ違うと思うのですが、一つ思いつくのは、花は意を託すことができるものではないかということです。昔の花の消費は主に仏花で、仏様にお供えするために花を買ったりしていましたが、亡くなった方に意を伝えるためにお花を供えているわけです。先ほど尾室室長の話にもありましたが、バレンタインにお花を贈るのもそうだと思います。自分の気持ちを託せるものは他にもあると思うのですが、多くの人たちが託せるものの一つが花ではないかと思います。

〈須磨〉 花は気持ちを伝えるのに一番適しているということでしょうかね。母の日のカーネーションもそうですね。

私たちは、このところのコロナ禍での体験やウクライナの大変な状況を見るにつけ、今、時代が変革期にあると思うのです。その中で花とどう付き合っていけば、人はもっと幸せになり、時代はもっと良くなるだろうかと考えます。この点について尾室さん、どう思われますか。

〈尾室〉 私の話でも少し触れたのですが、お花には人の心を豊かにする力があるので、こういう社会状況の中で、卒業式や結婚式という特別な日にお花を使っただけのはもちろんいいのですが、お庭や食卓などに暮らしの一部としてお花を取り入れていただくことが、社会が豊かになっていく上で非常に重要なのではないかと思います。

〈須磨〉 心を豊かにするためですね。林さん、どうですか。

〈林〉 先ほどご紹介した塚本洋太郎先生は、岡山大学での集中講義の最後に、「私は世界中を旅してきました。戦争している国に花はありません。豊かな国は花をいっぱい植えています。モラルを育てるために花は植えなくてはいけないのです」と言われました。私はこれが本当に印象深かったです。

『園芸の時代』の中にも紹介されていますけれども、昭和 22 年、阪急電車の車内では、ものすごく混み合っていたにもかかわらず、花を持った方が乗り込んできたときにみんなが場所を空けたというのです。食べていくことに精いっぱい毎日

でありながら、花を携えた人が乗ってきたときには席を空けて、花が折れないようにしたそうです。先ほど主張した「花育」もそうですが、モラルを育てていくためには花を育てないといけないのです。

それから、これからは自動化、リモート化が進み、人は今以上に時間を持て余すようになるでしょう。そのときに人生の句読点というか、仕事などでずっと緊張している中で、必需品ではないけれども、花のような嗜好品は今後必要になると思います。花などは句読点的な存在となる典型ですけれども、これからはそうしたものが重要な意味を持つのではないかと思います。

〈須磨〉 先ほどバイオフィリアの話をしました。人間にとってなくてはならないものの、それを忘れていろいろなところがぎくしゃくするのではないのでしょうか？城山さんはどう思われますか。

〈城山〉 花のある景色は、人の心を穏やかにすると思います。先ほど紹介した私のガーデンもやはり見ていると気持ちが落ち着きますし、飽きません。その間に心もどんどん浄化されていきます。単体で見る全ての花がそうかという、そうでないものもあるかと思いますけれども、そういう景観を作ろうと思ったら、植物を使わないとなかなか難しいのではないかと思います。

〈須磨〉 確かにそうですね。最近では花壇に球根を植えるときも、何センチ置きという方法ではなく、たくさんの球根をばらまいて、落ちたところに植えていって、自然風の花壇を造るのがはやっていると聞きます。城山さんのお話とぴったりだなと思いつつ聞いていました。

〈城山〉 やはり人為的なものと自然的なものでは、見たときに気持ちに与える影響が随分違うと思うのです。

〈須磨〉 ただきれいではいけなくて、花を植えるということは、自然を感じるものでなければならぬという考え方ですね。

〈城山〉 人の意図があるものは、そこにその人の主張があるのです。そうすると、人の気持ちには入っていけない部分がありますし、意図のないものがよりその人の心を包み込んでいくと思うので、できるだけ人工的ではないデザインにしようとしています。

〈須磨〉 尾室さんのお話を聞いていて、国の政策として花を普及させようというお仕事はたくさんあると思うのですが、個人的にはお花についてどのように思っているのでしょうか。

〈尾室〉 先ほどの城山先生のお話ではないのですが、どうしても人が作ったものは、コンパスと定規があると描けてしまうようなものが多いのですが、お花はそうではなくて、自然のものです。私の職場でも卓上にお花を飾っている職員が結構いるのですが、やはり職場の雰囲気も明るくなりますし、特別な力があるのだなと改めて感じますね。

〈須磨〉 ご自身もお花は育てていらっしゃるのですか。

〈尾室〉 そうですね。小さいながらも庭でお花を植えたりしています。

これからの花との付き合い方

〈須磨〉 次に、これから先の花との付き合い方を考えていきたいのですが、例えば農水省

では、室内で花や緑を飾ると仕事の効率が高まるとか、癒やしになるとか、人々の創造性が高まるという研究を後押ししていらっしやると聞いたことがあるのですが。

〈尾室〉 そうですね。委託事業でそういった研究成果をまとめていただいている、お花を置くと効果があるということと、ただめでるだけでなく、お世話をすることによって効果がさらに高まるという話をしています。われわれも宣伝下手なところがあって、うまく世の中に発表できていないのですが、冊子を作ったりしているので、興味のある方は言っていただければと思います。

〈須磨〉 育てるとなぜ効果があるのですか。

〈尾室〉 恐らく自分の行為がお花の生長に戻ってくるというところに喜びを感じる部分があるのではないかと思います。

〈須磨〉 林先生は先ほど、植物は会話ができる、知性があるという話をされておりましたよね。知性のある植物と日々共に暮らすと、どんないいことがあると思われませんか。

〈林〉 やはり全てはDNAの刷り込み、共進化だと思いますね。本来的に切っても切り離せないところがあって、研究的にも緑視率といって、緑をどれだけ見るかによって癒やしの度合いが違ったりしますし、仕事の効率が上がるという研究もあります。ですから、平凡な答えなのですが、生活になくってはならないものだと思います。

授業の一環で学生たちと「植物の効用は何か」というテーマで議論するのですが、植物は意外と光合成によって酸素を発生させるという効用があったり、観葉植物を部屋に置いておくと空気を浄化したりします。一番の効用はやはり、緑があると癒やされるということだと思うのですが、これをきっかけに、植物にはどんな良いことがあるのかということ、研究だけではなくて一人一人が見直していかなければならないのではないかと思います。

〈須磨〉 大学で若い方と接していらっしやると思うのですが、先ほどの農水省の調査では若い人がなかなか花を買わなくて、花に興味を持っていないのではないかという結果が出ていました。先生のところでは、若い方の植物への関心をどのように感じていらっしやいますか。

〈林〉 農学部ですから、植物に何らかの関心があって入学してきていると思うので、植物が好きな学生は多いと思います。でも、消費は減ってきていますし、卒業式に先輩に花束を贈るという行為は習慣化されていますが、本当に花が好きかという疑問です。

しかし、アメリカでは子どもたちが植物のことをものすごくよく知っているので



す。その理由が、夏は夜の9時ごろまで明るいところがあり、お父さんが5時ごろに帰宅するとバックヤードでガーデニングをしていて、子どもたちがそのお手伝いをするからなのです。それで、子どもたちは小さい頃から植物に触れていて、植物の名前や育て方をよく知っているのです。ただ「花はいいからね」と言われても、それを受け入れる価値観はなかなかすぐには育まれないので、花育を小さいときからしていくことは大切だと思います。

例えば幼稚園でミニトマトを作るのですが、先生に栽培技術がないので、グラウンドの真ん中にミニトマトの鉢を置いたりして、全部枯らしてしまうのです。ですから、花育をしようという掛け声だけではなくて、社会的に花を育てることの大切さをどうやって教えていくかということも考えないと、なかなか難しい面が出てくると思います。37年間教育をやってきた人間の反省点として、子どものときから身近な所で花に親しんで、まちなかを花であふれさせて、そういったことに親しむ機会を作ってあげることが必要だと思います。

〈須磨〉 人から人に伝わって、それが子どもに伝わっていくといいですね。オープンガーデンの女性の皆さんがグループを作って、命の教育をしないと、子どもを集めて花育を教えたりしていましたが、それがどんどん地域で広がるといいですね。

〈林〉 そうですね。これからの大人の責任というか、そういう環境を子どもたちに作っていくことは本当に必要だと思います。

〈須磨〉 もう一つ、今の時代に花が必要ではないかと思う理由として、デジタル時代があると思うのです。特にコロナ禍で、オンラインでの会議や授業が一般化しましたよね。リアルが減っているとすごく思うのです。このデジタル時代には、特に花は大事ではないかと思うのですが、皆さんどのようにお考えですか。

〈尾室〉 おっしゃるとおり、リアルでコミュニケーションを取りづらくなっている中で、人間はナチュラルなものを自分の周りに欲しているのではないかと思います。先ほどコロナでお花の消費が伸びたという話をしましたが、テレワークのパソコンの横にお花や観葉植物を置いてみようという方が増えたことがその証左として表れているのではないかと思います。

〈須磨〉 城山さんは植物園のお仕事で、花が好きな家族と接することが多かったのではないかと思います。どのように感じていらっしゃいますか。

〈城山〉 咲くやこの花館は家族での利用が大変多くて、やはり家族で来られると会話があるのです。何もないとなかなか話ができない家族でも、植物があると話すきっかけができています。

それから、デジタルに関しては、最近非常にリアルに見えるようになっていますが、触ったり、香りをかいだり、花が持っている重要な要素には対応していません。実際に見たときと画面で見たときとは大きな違いあるという気がします。

〈須磨〉 私はそうした実体験がないと人間が駄目になるのではないかと時々思うのですが、林先生、そう思いませんか。

〈林〉 体験は重要だと思います。体験しないで文字や言葉で伝えたり、物語を読んで理解したりしてしまって、頭の中でそればかりが先行してしまうのです。ですから、花を作るというのも必要で、見るだけでなくさらに作ることで、真の美しさに触れたときに初めて気付くことがあると思います。

「花のある新しい暮らし」に向けて

〈須磨〉 五感を刺激するものが消えていってデジタル社会になっていくと、人として備わっている感覚が退化していくような気がしています。そうした間違っただけの方向に時代が向かわないように、これから花とどのように付き合えば、より良い時代になれるのでしょうか。

私は、感動の源はITT、愛と知恵と手間だと思うのです。感動とは心が動くことであり、愛や知恵や手間がこれからもっともっと大事になると思いますので、「花のある新しい暮らし」に向けてぜひ知恵を出していただきたいと思います。

〈尾室〉 最近、お花の売り方が変わってきていると聞きます。昔であれば何種類かのお花で花束を作って売っていましたが、今は品種を指定して、一本ずつパーソナルユース向けに売られることが増えました。そうした自分で楽しむためのお花を買うスペースを増やしたりすることがニーズが生んでいくと思うのです。ですので、お花は人を豊かにするという信念の下、お花の良さを分かってもらうことに行政としては意を尽くしていきたいと思っています。先生のお話にあったようなコミュニティガーデンのようなものも広まっていけば、生活の中でより花が身近なものになっていくと思います。

〈須磨〉 そうなると、暮らしがもっと豊かになりますよね。城山さん、いかがですか。

〈城山〉 コミュニティガーデンは、庭のない人も団地に住んでいる人もそこを通れば見ることができるのですが、変化しないと1回見たらあまり見ようと思わないのです。そうではなくて、見るたびに違う景色が見えて、自分の好きなものを探そうとすることが大切だと思います。虫が好きな人は虫を見てもいいですし、管理するボランティアの人がインタープリターになって、通りがかりの人にいろいろな説明をして、その人がまた関心を持つような形で知識の伝達を深めていくと、またあそこに行ってみようというふうになります。そういうガーデンがまちなかにたくさんできるといいと思っています。

〈須磨〉 コミュニティガーデンが増えれば、時代はいい方向に変わっていくということですね。

〈城山〉 そうですね。ただ、ちょっと時間がかかるかもしれません。というのは、初めての植栽にはどうしてもプロの知識が必要で、管理も知識と技術を身に付けたボランティアでないと難しいからです。片っ端に草を抜いてくださいというボランティアではないので、常に観察して何がどうなっているか、しなければならぬことは何かということを考えることによって労力を減らすという考え方なので、しばらくの訓練期間が要ります。的確なコミュニティガーデンが増えれば、必ず時代は良くなると思います。

〈須磨〉 スキルを身に着け手間のかからない素敵な空間がたくさんできたらいいですね。

〈城山〉 コミュニティガーデンも目的によっていろいろなものがあるので、例えばこども食堂のための材料を作るガーデンがあってもいいわけですね。社会を良くするガーデンとそうでないものがあるのもいいと思います。

〈須磨〉 可能性の一つということですね。林さん、いかがでしょうか。

〈林〉 コミュニティガーデンには大賛成なのですが、それを実際にどう広めていくかと

いうときに、子育てに忙しい世代は時間がありませんよね。でも、子育てをしている親が植物の大切さや良さに気付かなければ、身近なところで教えられません。ですから、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に図鑑などを眺めながら大切さを教えたりすることも必要でしょう。子育てを終えた人たちがどれだけ次の世代の子どもたちに対して植物の大切さを伝えていくことが大事だと思います。

中国のことわざに「1年楽しみたければ花を育てよう。10年楽しみたければ木を育てよう。100年楽しみたければ人を育てよう」という言葉があるように、次の子どもたちを育てる世代、もしくはその上の世代がみんな力で力を合わせて植物の大切さを唱えていき、みんながコミュニケーションするような場がまちなかにたくさんあるといいですね。やはり場がなければ交流できません。

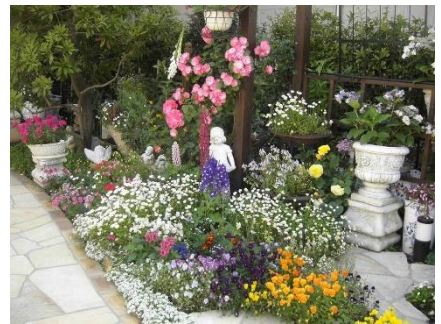
〈須磨〉 場はきっかけを作りますよね。思い起こせば、大阪での花博がきっかけとなってガーデニングブームが起きました。

今回のフォーラムでも、花の豊かさ、必要さが多くの人にひろまるきっかけになるのではないかと期待しています。この場かぎりのものにはしたくないですね。

最近危惧しているのは、例えばSDGsの項目をクリアすることだけに終始して、本質を忘れがちになるのではないかということ・・・。バイオフィリアもそうで、人は植物といると落ち着くし、いいことばかりだとみんな言うのですが、結局は別の言葉がはやるといつの間にか忘れ去られてしまったりします。花を単なる流行りにはしたくないものです。

今日のフォーラムでお三方からいろいろないいお話を聞かせていただきました。皆さんそれぞれに、共感できる場所があったと思います。とすれば、その言葉、考え方を、周りの方々に伝え、広めていただけたら有難く思います。本日はありがとうございました。

● 発表資料







花博記念協会設立30周年記念フォーラム
「花のある新しい暮らし」

令和4年3月

発行 公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036

大阪市鶴見区緑地公園 2 番 136 号

TEL 06-6915-4516

FAX 06-6915-4524

URL <https://www.expo-cosmos.or.jp>

複写・無断転記を禁ず